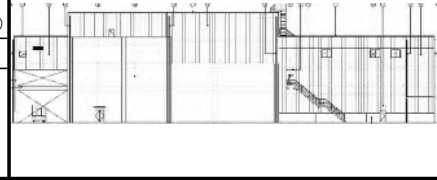


CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム V2.7.0 (2016) | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名古屋市南陽工場(前処理棟、コホパ道路棟、人口計量棟)	階数	地上3F/地下1F
建設地	名古屋市港区藤前二丁目101番	構造	SRC造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	32人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,936時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年2月 予定	評価の実施日	2023年6月1日
敷地面積	6,160 m ²	作成者	
建築面積	3,097 m ²	確認日	2023年6月1日
延床面積	4,933 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100% (46 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 96% (4.4 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外のオンサイト手法 96% (4.4 kg-CO₂/年・m²)

④上記+オフサイト手法 96% (4.4 kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 3

Q3 室外環境(敷地内): 2

LR1 エネルギー: 3

LR2 資源・マテリアル: 3

LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.8

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.7

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.6

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.6

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
・雨水処理水の植栽散水利用、再利用水の場内床洗浄利用など、資源保護の対策をとっている		
Q1 室内環境 ・使用する材料は、F☆☆☆☆、VOCを含有しないもの、VOC含有量が少ないものとする ・禁煙	Q2 サービス性能 ・空調換気ダクトの屋外露出部分は、長寿命化対策としてステンレス鋼板を使用する ・電気通信配線は、ケーブルラックや電線管の使用により仕上げ材を痛めずに配線の更新を行うことができる	Q3 室外環境(敷地内) ・屋上緑化、南壁面緑化を行う ・室外機はGL+10m以上の位置に設置し、敷地内歩行者空間の暑熱環境を緩和する
LR1 エネルギー ・BEIm=0.92	LR2 資源・マテリアル ・節水型便器(グリーン購入法適合品)や自動水栓を使用する ・雨水処理水を植栽散水に利用する ・再利用水を場内の床洗浄に利用する	LR3 敷地外環境 ・ライフサイクルCO ₂ 排出率が基準値に対して96% ・管理用車両の駐車スペース確保している

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

名古屋市南陽工場(前処理棟、コンヘア通路棟、入口計量棟)

- 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
- 評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				2.7
LR1	エネルギー	2.6	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.1	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.12	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.012	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.06	
3. 循環型社会				3.7
LR2.1	水資源保護	4.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 2.7
2. 自然共生	評価点 = 2.3
3. 循環型社会	評価点 = 3.7

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。